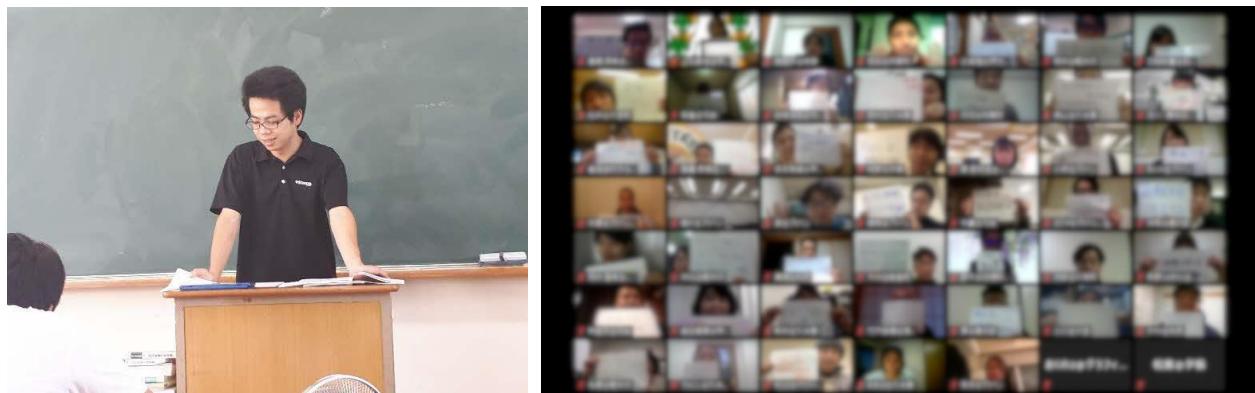


## 【移住体験談】協力隊の仕事 vol.3 廣橋 昂希さん

こんにちは。伊方町地域おこし協力隊の廣橋昂希と申します。大分県出身の25歳です。（これを書いている時点で）着任から2年2ヶ月が経ちました。よろしくお願いいたします。

### Q1. 現在行っている仕事の内容を教えてください。

「公営塾」という町が運営している塾の講師として、伊方町唯一の高校・三崎高校の生徒を相手に勉強を教えながら高校魅力化に取り組んでいます。具体的には学校と連携した塾生のサポート、AO・推薦入試対策、講師の経験を活かした塾生へのアドバイスやワークショップの実施などです。公営塾（公設塾とも）は全国にあり、様々な取り組みをされておりますので、ぜひ調べてみてください。



↑全国の公営塾がオンラインで集まった時の写真です。50名ほどいたでしょうか。

### Q2. 伊方町に移住を決めたきっかけはなんですか？

私は大分県出身なのですが、高校卒業後は愛媛大学法文学部に進学、卒業し高校の教員免許を取得した経歴から、愛媛県の教育関連の仕事にアンテナを張っていました。その折、斬新な？この募集を知りました。当時、三崎高校は（愛媛県公立高校の）分校化の基準となる「3年連続で入学志願者数40名を切る」にリーチがかかっており、衰退が危ぶまれる状態でした。そこで、分校化を阻止すべく打ち出された高校魅力化プロジェクトの一環として、公営塾の設立が決まり、オープニングスタッフを募集していたのです。この募集に名乗りを上げた一番の理由は、正直に言いますと「分校化、回避できたら熱くない？」というものでした…。今考えれば薄っぺらな使命感ですけども、令和1年度は40名に達しなかったものの文科省の事業に選ばれ、2年度は40名どころか募集定員の60名を超えまして、本当に分校化を見送ることができました。私の影響は小さいでしょうが、関係者として最高の体験をさせていただきました。



↑趣味はタロット、手相、ルーン。イベントでたまに披露することもあります。

### Q3. 伊方町に移住してどうですか？

海が広がっていて、山があって、星が綺麗で、独自の歴史があって...と絵に描いたような地方暮らしができています。「不便することも多いのでは」とよく聞かれますが、そう思うことはあまりないです。

また、三崎高校は地域と連携した活動を行っているのですが、地域の皆様方がすごく協力してくださっていて、ありがたいと思います。「三崎高校は地域の方々も学校を残そうという気概が強い」と教育界からも一目置かれていますよ。



↑未来に咲き輝くという意味の「未咲輝塾」です。

### Q4. 移住を考えておられる方に一言お願いします。

協力隊としてお話ししますと...地域おこし協力隊の仕事は様々な出会いや体験がある一方、想像がつかないことも起こります。自分の思う通りにはならないかもしれないかもしれません。そんなのは怖いとか、自分が地域に何を還元できるのか分からないと考えることもあるかと思います。しかし、活動していく中で自分の経験や価値観と、地域の方々との協働による情報や課題が混ざり合い、自分にできる仕事、求められているものが見えてきます。表現するならば、ゆるやかに刺激的な仕事です。もし迷っているならば、思い切って地域に飛び込んでみては！？

